別海町立西春別小学校　学校だより

か　ら　ま　つ　　No.11

平成３０年　９月28日発行　　発行責任者　校長　金森　卓哉

かけられた言葉から学んだこと

校長　　金　森　卓　哉

敷地の内外にはたくさんのオンコの木がありその赤い実に虫たちが集まり、背の高い鬼ぐるみの木では、いま、たくさんの実を落としています。オンコ、鬼ぐるみ、ミズナラと、実をつける時季を迎えております。

９月20日（木）、本校ではクロスカントリー記録会が行われました。青空の下、少し暑いかなと感じられたのですが秋風もあり、走るには悪くないコンディションでした。保護者の方もたくさん応援に来てくださり、保育園からは引率の先生と８名の園児の皆さんが来て応援してくださいました。この応援の中で子どもたちは走ります。練習の時より速いペースなのか、厳しい表情で無言のまま走り続けています。聞こえてくるのは地面を踏む足音、そして、苦しそうな「ハァーッ、ハァーッ。」という息づかいだけです。笑いながら走る子はいません。余裕で走っている子もいません。みんな苦しい、でも、走り続けなくてはならない。「歩こうか？」と何度も自分と会話をしながら走り続けたと思うのです。自分と対峙し懸命に我慢する姿を観させてもらった気がします。

子どもたちから言葉について学んだことがありました。それは、思いがけない時にかけられた言葉でした。会議に出かけるので、靴を履き替えて学校を出ようとした時です。「校長先生、どこいくの？　解らないけど～。いってらっしゃい！！」という言葉を高学年の男の子からかけられたのです。そして、その会議が終わり帰ってきた時です。ちょうど４時間目の授業が終わった時刻でした。職員玄関を通る中学年の女の子が、「お帰りなさい！」と言って階段を上って行きました。この２つの言葉をかけられた時、自分の心がふっと明るくなった気がしました。もう１つは、クロスカントリーの全体練習の時でした。暖かい日でしたのでコースに出て子どもたちの様子を観ていました。一人で走っている高学年の女の子から、「帽子をかぶっていないけど、先生だいじょうぶですか？」と心配する言葉をもらいました。私の方が心配でコースに出て子どもたちの様子を観ていたのですが、反対に心配されてしまいました。この３件ともそんな言葉をかけられるとは思っていなかったので、「えっ？」という驚きと、その後うれしさが湧いてきて明るい気持ちに変わってくるのでした。「こういう時に、こんな言葉をかけられると、心がこんなに明るくなるものだ。」ということが解り、相手の心をうれしくする言葉、相手の心を明るくする言葉、相手のことを大切に思う言葉など、言葉の持つ力について学ばせてもらった気がします。

10月13日（土）は、２学期の一番大きな行事である「学芸会」です。残り２週間です。子どもたちと先生方は毎日練習を重ねております。２階の音楽室から聞こえてくる器楽の練習。初めはそれぞれの楽器が音を出していました。それが、みんなで揃えて練習しているように聴こえだし、メロディーが少しずつ繋がりだすと、「あの曲だ！」と解ります。そして、メロディーが一つ楽器パートから次の楽器パートへと移り演奏が流れだします。「うまくなってきている。」とうれしくなるものです。担任の先生は、初めた時はきっと「これは、いったい、どうなるのだろう？」と心配しながらスタートしたと思います。それが、子どもたちと毎日練習を続ける中ですこしずつ少しずつ完成度の高い演奏となっていきます。子どもたちの努力と先生が子どもたちを信じての指導する賜物かもしれません。

地域の皆様のご参観をお待ちしております。

花壇は、いまが一番きれいな色彩を見せてくれているのかもしれません。マリーゴールドの黄色とオレンジ、ベコニアの赤と白そしてピンク、ひまわりの黄色、コスモスの臙脂と白そしてやさしい桃色。咲く姿を見にくるものに向けて、毎朝お世話してくれている校務補さんに向けて、秋という花の終わりの季節に向けて最後の頑張りをみせているようです。